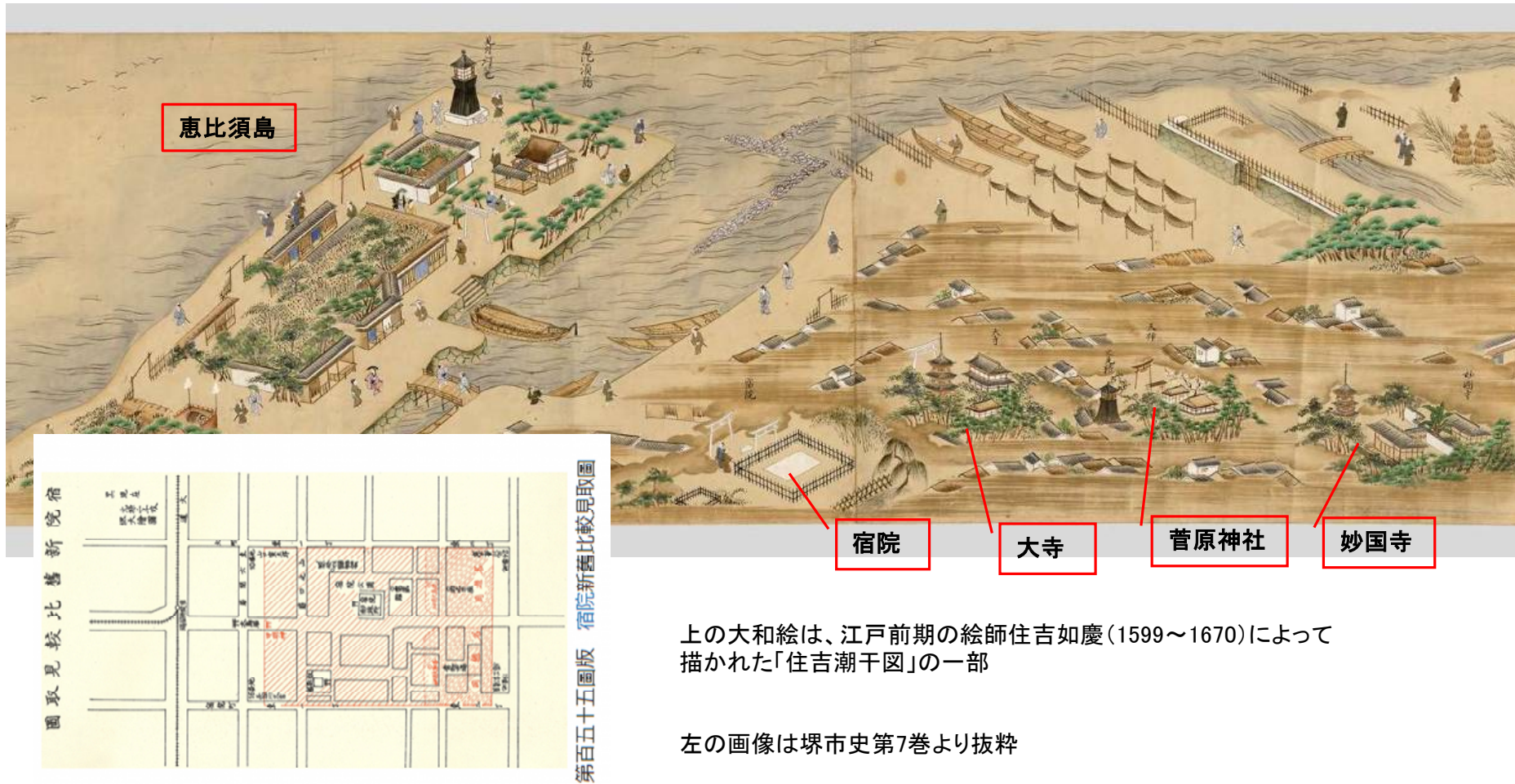


## 「チリヤタラリ川」という言葉について

「堺市史」第7巻の宿院の項に「チリヤタラリ川」というちょっと変わった名前の川が出てくる。そこで、「チリヤタラリ」という言葉について調べてみた。

### 1. 堺市史の記述

【元祿頃の状態】此地徳川時代にあつては元祿元年に出来た和泉國村高并名所古蹟集に境内一丁四方とし、入口は住吉の吉字を象徴して十一口とし、周圍に**チリヤタラリ川**を繞して西方川尻から水流を海に注ぎ、川口の沖合二丁の所に楠の鳥居があつたと記してある。



上の大和絵は、江戸前期の絵師住吉如慶(1599~1670)によって描かれた「住吉潮干図」の一部

左の画像は堺市史第7巻より抜粋

## 2. 住吉大社のチリヤタリ



細井川？

チリヤタリ？

左の画像は「摂津名所図会」の抜粋

「知利也多羅里」

「一之社より巽方一町ばかりに小溝あり。

其中に滝のごとき流れ落つる音チリヤタリといふ」とあります。

解釈：第一本宮から南東約100mの場所に小さな溝がある。

その中に滝のように流れ落ちる音がチリヤタリと聞こえる。

### 3. 現住吉大社での場所確認



食満南北(1880~1957)の作品「すみよし茶屋」(1932)には、住吉大社の見所として、「鵜橋(くぐいばし)」と「ちりやたらり」を挙げている。

### 4. 翁猿楽

「翁」は、能の曲のなかで成立が最も古く、神聖視されている曲。能では別曲扱いをされ、正月や祝い場で演じられる。神楽の構成と似ており、父尉(ちちのじょう)、翁、三番叟の三老人の祝福舞の総称で式三番とも言われる。室町時代には、父尉が露払い役の千歳(せんざい)にかわる。翁役の呪文的な謡を「神歌」とも称されている。「翁」は、最初に翁を演じる者(シテ)と地謡(じうたい)とが次のように掛け合う。  
\* 地謡とは、舞台の一隅(地謡座)に列座する者がうたう謡のこと、また、その役。

シテ 上 「とうどうたたりたたりら。たたりあがりららりどう  
 地 上 「ちりやたたりたたりら。たたりあがりららりどう  
 シテ 上 「所千代までおはしませ  
 地 上 「我等も千秋さむらはふ  
 シテ 上 「鶴と亀との齡にて  
 地 上 「幸心に任せたり  
 シテ 上 「とうどうたたりたたりらたたりら  
 地 上 「ちりやたたりたたりら。たたりあがりららりどう  
 千歳 下 「鳴るは滝の水。鳴るは滝の水日は照る  
 地 上 「絶えずとうたり ありうどうどうどう  
 千歳 下 「絶えずとうたり。常にたうたり（舞）  
 以下省略

「ちりやたたり」など意味不明の言葉には、「滝の水音」、「仏教の陀羅尼」、「囃子の音や声」といった諸説がある。

千歳の舞: 露払い的な役割で、その場を浄める役目

翁の舞: 白式尉の面を付け神の姿となって天下泰平、国土安穩を祈る

三番叟の舞: 五穀豊穰を祈る

